

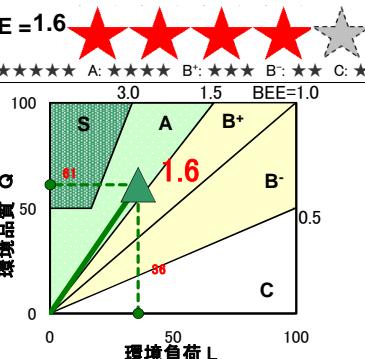
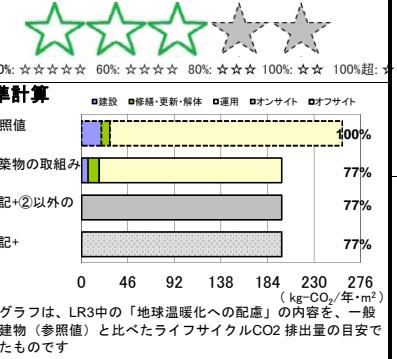
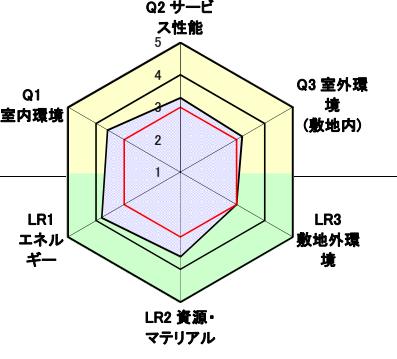
# CASBEE札幌

■使用評価マニュアル: CASBEE\_Sapporo2014v1.2 ■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)プレミスト北11西1A棟新築工事	階数	地上14F
建設地	札幌市北区北11条西1丁目9他	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	208人
気候区分	2地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年11月 予定	評価の実施日	2016年3月7日
敷地面積	1,238 m <sup>2</sup>	作成者	壁下浩
建築面積	400 m <sup>2</sup>	確認日	2016年3月31日
延床面積	4,171 m <sup>2</sup>	確認者	壁下浩

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
<b>BEE = 1.6</b>				<b>Q 環境品質</b>	<b>Q のスコア = 3.4</b>
S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★	BEE=1.0	標準計算	Q1 室内環境	Q3 室外環境 (敷地内)	
100	3.0 1.5 BEE=1.0	①参照値 100%	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	
50	0.5	②建築物の取組み 77%	Q1 室内環境	Q3 室外環境 (敷地内)	
0	0.5	③上記+②以外の 77%	LR1 エネルギー	LR3 敷地外環境	
50	100	④上記+ 77%	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
100	3.0 1.5 BEE=1.0	0 46 92 138 184 230 276 (kg CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	Q3 室外環境 (敷地内)	Q3 室外環境 (敷地内)	
環境負荷 L	0.5	このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量の目安で示したものです	LR1 エネルギー	LR3 敷地外環境	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
<b>Q1のスコア = 3.6</b>	<b>Q2のスコア = 3.3</b>	<b>Q3のスコア = 3.2</b>
音環境 3.6	機能性 3.6	生物環境 3.0
温熱環境 3.5	耐用性 2.9	まちなみ 4.0
光・視環境 3.3	対応性 3.5	地域性・ 2.5
空気質環境 3.8		

LR 環境負荷低減性		
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
<b>LR1のスコア = 3.8</b>	<b>LR2のスコア = 3.6</b>	<b>LR3のスコア = 3.0</b>
建物外皮の 5.0	水資源 3.4	地球温暖化 3.9
自然エネ 2.0	非再生材料の 3.9	地域環境 2.1
設備システ 4.1	汚染物質 3.3	周辺環境 3.2
効率的 3.0		

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b>	<b>A 省エネルギー</b>
注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 ・住棲配置は南面開口を有効に確保するものとし通りへの環境配慮として、植栽・照明等の連続した配置により、街並、駐車場部分の修景を行なった。	注) 「A: 省エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・住宅性能評価の温熱環境断熱等性能等級4を確保しております。 ・効率の優れた蓄熱回収型給湯設備の採用など、省エネ効果が期待できる。
<b>B 省資源等</b>	<b>C 緑化</b>
注) 「B: 省資源等」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・乾式間仕切、断熱材のケルン吹付等、分別を比較的容易にしている。	注) 「C: 緑化」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・道路際には植栽を連続させ、常緑の高木の連植の間には開花により彩をもたらす植栽計画とした。
<b>D 雪処理</b>	
注) 「D: 雪処理」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ・敷地内及び歩道の一部をロードヒーティングとし、冬期間の除雪の軽減に努めている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される